

私どもの論文「部位別がんの疾病費用」は、Cost of illness法という方法を使って主要な9部位のがんの社会的負担を、時系列を追って測定したものです。がんは現在においてもわが国の死因の第一位であり、最も重要な疾患の一つであることには変わりはないのですが、部位別にみると、医療技術の変化に加えて高齢化の進展によって社会的負担の重要性がそれぞれのがんで変化しています。論文ではこの変化を貨幣というタームを用いて可視化しようと試みました。研究方法自体は目新しいものではなく、データも公表データを中心に使ったものですが、個々の計算には時間がかかりました。今回の受賞はこの地味な作業に対して評価をいただいたものと考えており、共著者ともども心から感謝しております。

今回の受賞を励みとして研究をより拡張すべく努力していきたいと存じております。これからもご指導の程何卒よろしくお願ひいたします。

点を包括する難しいテーマでしたが、時間が足りないほど熱のこもった討論が繰り広げられました。

## 第13回茨城県支部学術集会

学術集會会長：水戸済生会総合病院院長 村田 実

2012年8月11日(土)茨城県水戸市の県立県民文化センターにおいて、「チーム医療～医療の質向上と業務効率改善を目指して～」をテーマに、県内医療従事者約650名の参加による第13回茨城県支部学術集会を開催しました。

特別講演では、国際医療福祉総合研究所所長/国際医療福祉大学大学院教授の武藤正樹先生に「医療が変わるto2020～拡大するチーム医療とスキルミクス～」、教育講演では、日本看護協会副会長/福井県済生会病院副院長の大久保 清子先生に「チーム医療の推進と専門職の役割」と題してご講演をいただきました。

パネルディスカッションでは、「チーム医療と人材育成」をテーマに、医師・薬剤師・看護師・事務員の職種の異なるパネリストの方に、それぞれ専門の立場から創意工夫を凝らした取り組みについて発表をいただきました。

また、一般演題64題、クリティカルパス展示・発表24題のエントリーがあり、様々な職種から報告がなされました。各セッションとも活発な意見交換等があり、会場は熱気に包まれていました。

最後に、本会が盛会のうちに終了できましたのも、関係者の皆様の多大なるご支援ご協力の賜物と心より感謝申し上げます、開催の報告とさせていただきます。

## 第10回高知支部学術集会

学術集會会長：高知大学医学部附属病院総合診療部教授 瀬尾宏美

第10回高知支部学術集會は、2012年8月26日(日)に高知県県民文化ホールにおいて開催され、291名の参加がありました。

今回の学術集會のテーマは特に決めずに、一般的な医療安全、医療連携、感染制御、IT、口腔ケア・嚥下、患者サービスなどのほか特に医療者の健康などをテーマとして、13のセッションで、52題の一般演題(口演)が生まれ、各セッションで活発な意見交換がなされました。

特別講演では、筑波大学の鈴木 瞬先生をお招きして「これからの健康の話をしよう～医療者のワーク・エンゲージメントとSOC～」という演題で、医療者の健康について講演をいただきました。軽快でわかりやすい講演で、聴衆は自分自身の健康について改めて深く考えさせられました。本学術集會を盛会のうちに無事終了することができました。

ご指導とご協力をいただきました関係各位へ厚く感謝を申し上げます、開催の報告といたします。

## 開催報告

### 支部学術集會

#### 第19回静岡県支部学術集會

当番世話人：沼津市立病院外科部長 福長 徹



会場風景

2012年8月5日(日)、沼津市サンフロントビルに於いて第19回日本医療マネジメント学会静岡県支部学術集會を開催致しました。スタッフを除き161名の方々に参加いただきました。

今回は日曜日開催とし、各医師会に参加を呼びかけたため、近隣の中小規模病院・診療所からの参加者が多い印象でした。

一般演題は18題、クリティカルパスやチーム医療関連に加え、医療安全や緩和医療など幅広い演題が集まり、活発な議論がなされました。5施設からは特色のある12種類のクリティカルパスが展示され、各施設が参考とできるようにクリティカルパス資料も配布されました。

ランチセミナーでは、倉敷中央病院 米井昭智先生より「医療安全の院内研修」をテーマに、病院全体でシステムチックに医療安全に取り組んでいる様子を、多くの動画や写真でご講演いただきました。中でも病院幹部も率先して行う「指差し確認」の有用性には目を見張るものがありました。

「地域連携」をキーワードに、「肝臓がん」と「緩和医療」のクリティカルパス討論を行いました。いくつかの困難